Jun. 1894
no. 385

明治十八年初刊

女學雜誌

每週土曜日發兌

第三百八十五號

要目

日本婦人の天職
東洋に立る日本帝國の婦人が天職何如ん。八頁の長論文大ひに此旨義を發揮す。

園てる子を訪ふ
彼女に注目するもの内外に多し。彼女をして自から語らしめよ。玆に扉を叩ひて彼女に聞たるとを在の儘に筆述す。

時事欄内十數則
噫、大日本教育會◎文界寂寥◎伊藤對大隈◎近衛公爵◎李鴻章の狼狽◎黑死病◎東學黨を懷ふ◎朝鮮醫業奬勵會

南洲翁遺訓
彌よ出で丶彌よ高し、玆に絕頂に達して玆に美しく完結す。

明治二十七年六月廿三日發兌

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

第三百八十五號目録

社説
日本婦人の天職
天職
自から知ると及び其周圍を知るよ
男女の比較につきては三説あり
同等は同價を意味せず
同等は同質を意味せず
東洋に於て如何に感ぜられしか
西洋さ實際を聞くに至りて
保守反動さなり
北米合衆國、英國及獨逸
社會上の他の組織にも亦之あり
在來の男女の關係
支那、朝鮮、印度等
男女同等の新主義は眞理也
彼の外來の婦人
畏縮は生命を殺す

叩扉
閑てる子を訪ふ（上）井上次郎
容易ならぬ事實ありさして
彼女に付て掛念するもの渊よ多し
彼女か境は
試來を意識せられ
左らは御身は何如なる教育か
如何なる社會の子

文しらべ
西郷南洲翁遺訓（完結）

兒鑑
榮公の誕生日（しづ子）

家政
幼兒の玩具に注意せよ（淡流女史）
趣味ある物
變化ある物

雜錄
あゝ人生の大秘密
生活力あるもの
進歩の精神あるもの
有害なる繪具にて彩色せるもの
ブリキ細工等は危險なり
贅澤なるもの
破壞しやすきもの
悟道警錄（一）（愼獨學人）
大道坦々、修德易々
二人問答

書架
預言者以賽亞
小説百家選
教理講話
家庭の和樂
眞なる子供の教育所
天下の士

時事
經濟家尚は徒らに不和を望まず
噫、大日本教育會
尤さも愉快なる時機
伊藤對、大隈
文界寂寥
官設鐵道の拂下
中學校の實科
黒死病
李鴻章の狼狽
淺間山爆發
近衛公爵
東學黨を憤ふ
朝鮮閣業を奬勵分

時報
數十件

女學雜誌

第三百八十五號

明治二十七年六月廿三日發兌

社説

日本婦人の天職

右、大日本婦人教育會席上演説の大意。

天職

と云へる觀念を懷くときは、卑吝の氣骨脫然として去り、高潔純聖の思想うしほの湧くが如くに起こり來る。天、われを生んで此邦に置き、此時勢に會はしめ、此の周圍の事情に接わらしめ玉ふと觀念し來れば、如何なる懦夫も蹶然として起ち、感激して身を獻げんとするの覺悟を生ずるものなり。昔し、イスラエルの國民は、土地狹まく、人口寡なき、一小團結にてあり乍ら、天より命ぜられたりと確信したる一つの聖職を嚴そかに奉戴して、頗ぶる自重し、抱負尊大の氣象正々堂々として極めて高大にてありしかば、万國歷史に比類なき偉人物を續々として其國中に生じ其國をして、世界の大進歩に對し驚ろくべき大功業を成遂げしめたり、國として斯の如くなるに同じく、一個の人物としても亦た同樣の關係を有す。古來、偉麗の大人物として世に善事業を成し遂げたるものは決して利己私益の觀念ありしによるにあらず、功名榮華の觀念ありしによるにあらず、我儘道樂の觀念ありしによるにあらず。眞とに靈妙不可思議なる一種の叫びを聞き、上天大道の嚴そかなる指命を蒙むつて、玆に天の職を感じたる無我高尙の聖なる一觀念に激せられたるの故に由ると明白なり。もし公平なる卓見を以て偉人物の傳記を窺がひ考ふるときは、此の理を發見すると容易ならんと信す。然るに、此の天職の觀念を引起すものは必らずや、同時に、又は、先達て、

自から知ると、及、其周圍を知ると

の二つの知覺を生ずる也。自から知らざるものは、自暴自棄

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に陷いる。周圍を知らざるものは、懶惰枯喪に陷いる。先づ自から知つて、自己の重んずべきと、賴むべきと、大ひに用ゆべきと、他の善の爲に役するに足るとなどを悟覺して、初めて、自尊自重の抱負を生じ、同時に天の使命の聲を聞くに至る。又、此時周圍の事情を觀察して、國家四方の形勢のたゝならぬとを悟り、義人善者の勞役をもとむるとの急なるを見、來り働らけよ、來り助けよと招く聲の烈しきを聞きて、彌よ天の使命こゝにありと感激して身を献ずるに至る。自から知らざる間だは、衣裳の好み、お化粧、交際社會の喝采などにあたら日月を消し、十七の年の花を一生の春のたわむれとして、嚴肅なる人世に竢とむべき女性一人を俗殺せんとしたるエリサベス、フライの如きも、一たん自から醒めて靈覺の智識を得、更に周圍を見まわして、牢獄に獸の如く押込められたる憫れむべき罪人の逆待せらるゝを見ては、遂に其の天職を感じて起ちたり。纎細軟弱なりし世俗の一乙女すら斯の如し。希臘羅馬の賢母賢夫人が、貞操純潔、思想確固として、高く自重し、尙且つ、國家を愛する凜烈なる愛國心によつて其夫をはげまし其子を敎へ、其國に盡したるの精神を考ふれば、二千年后の吾等をして、彼賢婦人等が潔よき决心の在りし所ろを洞察するとを得せしむる也。左れば、人々には、先づ自から知ると、及び、其周圍を知るとの二ヶ條なかる可らず。之れなくんば、自から知らずして自づから輕ろんじ、周圍を知らずして自づから怠り、遂に自暴自棄、懶惰枯喪に陷いり、尙ほ活きたれども全たく死せるが如き狀態に沒すると免れがたし、然るに、惜しむべきは、社會組織の變態によりて、兎角、婦人をして、自から輕ろんぜしむるやうに、又、其周圍の見識をして成るべく縮めしめるやうに仕向けるは、何等の理由ありてぞ。怪しからぬ壓制と言はざるを得ず。惟ふに、こは必竟、男女間の關係を辨まへず、人類としての彼等が眞の價値を知らざるより起るの誤謬ならん。そも〳〵、

男女の比較につきては三說あり

第一は、男、女に優ると云ふの說。第二は、女、男に優ると云ふの說。第三は、男女優劣なし同等なりと云ふの說これ也。

第一、男子が女子に優ると云ふ說は、東洋にあつては、珍らしからぬ說なり。西洋にても、昔しは此說盛んに行はれ今も尙ほ主張するもの少なからず。或ひは、生理上により、或ひ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は歴史上により、或ひは現在の有樣によりて、女子の優るとを主張するの議あり。皆な採るに足らず（一々之を辨論せしが本誌上にては珍らしからぬ理解なれば、玆に省く。「吾黨之女子敎育」を參看せよ）。第二、女子が男子に優ると云ふ說はアウゴスト、コムトなどが主張する所ろにて、女性の美術的、感情的、道德的の品性を甚しく崇め、男性が武にして野なる、卑しくして私しがちなる劣性を矯むるには、女性の聖なる薰化なかる可らずと言ひ、男子は何ものかオガミテ其劣性を淸くすべきに付、則はち高潔善美なる女性を拜し、之をオガミ、之に祈るべしと言ふに至れり。之も一種の過激論にして採るに足らず。吾々が大中至正を得たりとして信服する所ろの說は、男女優劣なし、人として全く同等なりと云ふ第三說にある也。天は人の上に人を置かず。人の下に人を置かず、男女なるもの、人間としての地位に豈に上下優劣あるべきやは。左れど、

同等は同權を意味せず

男女同權論は、愚論なり。男子の間だにてすら、社會に於ての權力權理は、相異するなり。何んぞことさらに男女は必らず同權なるべしなど言ふや。社會上の權力權理は、智識、躰力、品德、年齡、財產、家柄、などさま〴〵のものによりて決すべきものゆへ、たゞ單純に抽象的の同權論などを主張すべきものにあらず。又、

同等は同質を意味せず

男女の質は天然に相異なるものなり。單に、其の經歷、其の習慣、其學問などの故によりて、后天的に相異なるにはあらず。先天的に相異なるもの也。もとより今日の相異は、幾分、其經歷、習慣、學問などの影響によるとならんは明白なれども、たとひ此等を三つ乍ら男女同樣にしたりとも、男女の質は尙ほ先天的に相異すべし。此の相異は、女子には男子に無き一の特別なる役目を命はせられたるの結果より生じたるなり。即はち、懷妊、分娩、哺乳、育養、保護、等の特別なる職分よりして、自づから感情、道念、美心等を發達し、男性と異なりたる一種の進化を爲すもの也。左れば、男女の質は未來永刧、相異すべし。たとひ、同じき學問を爲し、同樣の仕事を爲すに至りたりとも、其間だに於て亦自づから男女二樣の性格を現ずべし。此の二性の相違ふ趣むきは、西洋文學

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

者が屢ば詩文に於て巧みに記述する通りなり。如此く、男女は、人として同等なり、性質として異様なり。故に、随がつて、其職とする所ろを異にし、自から分勞分擔して、内外陰陽剛柔のわかれを爲さん。左れど、此の内外陰陽剛柔なる語ばはたゞ比較上の相對の意義を示すべきものなれば、之に固結したる形式をあてはめて万古伸びざるの制限を爲すとの謬まりなると共に、之によりて、優劣上下の差別を品定するとは均しく誤謬なり。男女は實に同等の人類なり。扨て、此の男女同等と云へる一大主義が、

東洋に於て如何に感ぜられしか

と言へば、前に述べたる如く、前古ほとんど未聞の新しき主義なり。元來、女性の勢力は恐ろしく強大なるものゆへ、たとひ主義持論の上に於て女は劣れるもの也と確論せしとて、實際の勢力は之によりて全く衰ろふるとなく、隱然として人知れぬ所ろに非常の勢力を伸したるとなれども、兎に角、主義持論の上に於ては、女は劣れるものと定められたり。男女同等などと言へる主義は、東洋に於て殆んど聞くとを得ざりし所ろのもの也。然るに、近代、

四

西洋と交際を開くに至りて

此の新らしき主義が初めて日本に傳來したり。之によりて、日本男女間の關係に一大變動を引起したり。明治六年の比ろ明六雜誌に男女同權論が掲載せられたる以來、只今ま吾等が會合する此の鹿鳴館なるものが、巍然として、芝愛宕のさもしき貧民が小屋を眼下に睨らみつゝ出來上り、館內にピアノ鳴りひゞき、男女手を握つて飛び、躍り、はねまはる所のダンスの遊びなどが、西洋風の男女交際と稱して盛んに流行するとなれりし迄で、日本男女間の關係は、一大激變動を引起したり。然るに、此の餘りに過激なる西洋風の眞似の甚しきに反動して、其の后は、

保守反動となり

爾來又々あともどりして、男女間の關係も、やゝ古風の如くとなり、一時、盛んに女子教育の演説を爲し、細君の手を牽ひて切りに西洋風を得意にせられたる方々迄が、其后は、日本風を好しとせられ、細君を待するとも、あともどりを爲し、矢張り旦那然として靴をぬがせ、足袋を取らせる昔し風が

見識あるかの如く思はれ、女は矢張り劣つたものだと見做さるに至り、女の學問などは、有害無益なるものだと評判せらるゝに至りたり。即はち、日本男女間の關係は、一度、赤道直下の最極熱の如くとなり、其后は北極の冷寒極まる躰裁となり、女の地位は、一度び天にまであげられて、其后は陰府に迄て下げられたり。左らば、前の西洋風が、よしと云ふか。后の舊日本風が、よしと言ふ乎。吾等思ふに共に非也。さらば、男女同等の主義は、何如にして吾國に適用すべきかと言ふと、一大問題となる也。先づ、近世、日本が交際して、所云る西洋主義なるものを新たに學知したる國々の主なるものと言へば、

北米合衆國、英國、及獨逸

ならん。ことに男女間の關係、女の地位などに關はる新主義を學びたるは、右の三國にて、第一に、北米合衆國、次に、英國、次に獨逸ならん。然るに、元來、此の三國の國民は、多分チウトン人種にして、先古以來、女性をいたはり、女性を尊敬し、女性を崇めたる所ろの人種なり。此の人種に、一視同仁の博愛を旨とする基督教が傳わりてより、彌よ女性を

愛敬するの氣風を生じたる所ろ、第一に日本に此の風を尤も多く輸入したるアメリカ合衆國は、新開國の常として更に一層婦人の勢力强き國なりしかば、日本に男女間の關係に於ける新主義を輸入したる最初の舶來說は、人種中に於て、世界中に於て、尤とも高く女性を重んずる國民にてありし也。此の尤とも高く女性を重んずる國民が、東洋と云ふ古來女を遇すると隨分酷にして、之を小人に比し、之を夜叉に比したる確言の立派に行はれたる國に突然其の新主義を輸入せしとゆへ、其說の新奇なるとは言ふ迄もなく、之によりて其の驚ろく可き激變を引起さしめたるとは、やゝ謂はれあるとなり。然るに、かゝる突然の大激變動は、

社會上の他の組織にも亦之あり

例へば、四民平等と云ひ、自主自由と云ひ、不羈獨立と云ひ、民權輿論など云ふ如き快活なる新主義が、我國に入りたる時、立まち舊日本の舊組織を打破して、此の抽象的の新主義を西洋に行はるゝと同じ形にて直ちに施行せんとしたるが、何れも誤謬なるとを發見して大ひに再考し、着實に古來の習慣を考へ、從來の仕來りに先考し、よく國風に則とりて而し

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て着々新主義を應用するとなりたり。即はち、主義は新たになりたるが、社會上政治上の習慣は、依然として舊來のまヽを用ひ、たゞ之が外形は少しづヽ修飾改良したるに過ぎざる也。かくして初めて應化適用の功を奏する順序となりたる也。惟ふに、男女間の關係、ことに女子の地位を高むるとなどにつきての新主義を我國に採用するに至つても、之と同様の覺悟を要するなり。

在來の男女の關係

は、外形にこそ餘りに懸隔して、餘りに見惡きとはわれども、日本のシバリーたる武者修行を初めとして、日本の武士が、女性に對したる優にやさしき心掛、又、サムラヒの妻が、良人に對したるケナゲなる潔よき貞操は、万國に誇るに足る美くしき情交義理なり。すべて、新らしきものを輸入するときは、着々として追々に變化すべきと勿論なるが、彼の、米國の如き國に行はれたる女に對する主義を、東洋に於て受入んとするに當つては、更に一層用心すべき筈なり。然るを况んや、日本男女間の關係に於ては、實際に、餘程尊重すべき美なる情交義理を存せしことゆへ、たとひ茲に新らしき主義と其道理あるとによりて輸入するとするも、從來の美なる情交義理を亂暴に打破せず、其形態はときのまヽにすとも、先づ着々其精神を變ゆるの處置を爲さんと肝要なり。然らざれば、單に外國の外形に真似て其主義を味はふとをせざるか、又は、反動して其主義をすら擯斥するに至るもの也。大日本の如き進取國にてすら既に此の掛念あるなれば、

支那、朝鮮、印度等に至つては、尚更の事なりとす。西洋人が、日本に向ふて輸入せんとしたる如き仕方にては、迚も彼國に一歩を輸入すると能はず。たとひ明白なる真理とすべき主義にても、其西洋風のまヽにては、決して入り込むと能はざるべし。故に、西洋にあるもののうちの善き新説、善き新組織などを、東洋一般に布かんとするには、先づ日本に於て之を撰擇し、日本風即はち東洋風に適用し、之が形をやや改良して而してのち、東洋一般に宣傳せざる可らず。日本の關門を一と度び通過して、日本風に變はりたる西洋主義のものならでは、決して東洋の地に根ざすと能はざる也。彼の立憲政體と雖ども、教育組織と雖ども、基督教の如きものと雖ども、皆な然るとなる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

が、婦人問題に至つては、取わけ、此の一琢磨を經たる上ならでは、東洋諸國に行はるゝとなかるべし。

男女同等の新主義は眞理也

左れど此の眞理は、日本に發達したる從來の外醜內美なる男女間の關係に參考し、調味し、折衷し、大ひに其姿を改良して而して后ち東洋に入るにあらずば、決して東洋に行はるゝと能はず。左れば、日本の婦人は、其同性の地位を崇むべき此の新主義、亞細亞全洲の同胞姉妹を救ふべき此の眞理を發輝し、宣傳する爲めに、もし此の主義眞理の精髓を吸ふて、室家の和樂を大ひに害するとなく、社會に大反動を引越すとなく、左りとも浮きたるホンの外形丈けの摸倣者を造るとなく、眞とに其主義を取入れて、追々其地位を高め、不知不識の間だに男女同等の眞理を顯揚して、而して、他の亞細亞諸洲に摸範を示し、憫れむべき足をもてる支那の婦人、憫れむべき子供のやもめぐらしする印度の婦人を初として、朝鮮、アンナン、シヤム、ビルマなど同洲民、同人種に此の新主義を採用せしむるは、日本婦人の天職なり。

彼の外來の婦人我國に傳道すと稱して、二十二三の乙女にてあり乍ら、海波万里を越えて、單身異境に來るの勇氣驚歎するに足る也。日本の婦人は、東洋諸國に新主義を宣傳すべき責任を負へり。諸君はすでに、其の天品を與へられたり、四方の光榮は、諸君にもとめつゝあり。諸君が天職は、明白ならすや。而して海外宣傳に二樣あり、其器量其地位、其事情、之に許し、尙且つ其の自信自任之に命じて、彼の外來婦人の如く、單身、東洋諸國に出でんとする人あらば、即はち斷行すべし。自から是なりと信じて爲す所ろの事業は、人之を制すべきにあらず。左れどこは尋常の事にあらず。尋常普通の日本婦人は、家に在つて靜かなる生涯を送り、一家の主婦として、良人を助け子を育つるの上に於て、たしかに此の海外宣傳の天職を盡すとを得べし。即はち、新敎育をうけ、新主義を守り、而してよく從來の女德に折衷調和せしめて、こゝに男女同等の新らしき眞理を、服和柔順を旨とせし舊日本の女風に接木し、美くしく新主義の眞面目を發揮して男女同等の實躰は如此しと示さんには、東洋諸國靡然として之に服し、彼の儒敎佛敎の女道を奉ぜし國々に於ても、實際に於て女子の地位を崇

むるの眞理に服することあるべし。故に此の眞理を東洋に宣傳するは、日本婦人の天職なり。

畏縮は生命をころす

新日本婦人の天職如此く重し、其の影響する所ろ如此く大ひなり。彼の教育もなく、覺悟もなく、タシナミもなき、輕薄婦人が、たゞ西洋風の外形にマチラ躍つてはねて而して多くの失策をかもしたりとて、安くんぞ男女同等の眞理の輸入を否定する力あらんや。之に對して一時の反動起りたりとて、何の畏縮すべきヿかあらん。吾等は斷じて此の眞理を東洋に輸たすヿにつとめざる可らず。こは、東洋の思想の根底をひるがへす也。たゞ其輸入の方に第一の試驗をこゝろみ、正當にして聰慧なる適用方を施こして、東洋に模範を示すは、即ち日本婦人の天職にあらずや。

螢火

徹踪一腐草、霜重不レ禁レ秋、
想ニ悟浮生短一、常爲ニ秉レ燭遊一。

叩扉

園てる子を訪ふ（上）

井上次郎

園照子につきて聞くヿ多し。內外の人にして彼女につきて聞かんとするもの更に多し。彼女が、英米二國に於て何如に經歷したるやは、其の自から著はしたる自敍傳、と彼地に發行せらるゝ新聞雜誌の記事をして、自から辨ぜしめよ。彼女が、日本に歸りたる后の經歷如何ん、現狀如何ん、將來また如何んと云ふヿは、直ちに彼女をして自から語らしめよ。彼女につきて聞くヿ多きが中にも、

容易ならぬ事實ありとして

精かに報道し、速かに女學雜誌記者たるものをして其任を盡さしめよと迫まり玉ふ人もなきにあらねど、抑そも今の園照その人は眇たる一介の婦人にはあらず、兎に角に日本婦人を代表すと自白して歐米諸國に盛んに遊說せし公人なり。此の人の一襃一貶は直ちに率ひて日本婦人の信用に關するもの少

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なしとせず。左れば、吾等は、彼女につきて言ふよりも尤とも慎しまざるべからず。而も、其の成功につきて尤とも希望せざる可らず。願はくは、日本婦人の爲めに掛念せる歐米の誠實なる知己をして其志をアダにせしめじ。又願はくは、日本婦人たるものゝ面目を海外に維持して、國としての辱を公人の身の上より受入るゝとなからんとて、則はち久しく彼女につきて言ふとなく、たゞ彼女が何如に實行するやを視察せんとなしたりき。然し乍ら、

彼女に付て掛念するもの彌よ多し

左れば、諸君が自から彼女を訪ふて、直ちに彼女に叩く所あらんとする望みを代表して、吾等こゝに彼女が蘆を訪ふべし。而して、彼女をして自から其現在につきて證言せしめ、更に其の將來につきて計畫する所ろを聞かしめよ。吾等は、たゞ寫言機としてこゝに彼女が言へりしまゝを寫すべし。紳士の躰面によりて秘すべき丈のとを秘して、其他を悉とく公けにすべし。

彼女が蘆は

麻布仲の町、もと中島衆議院議長が寓したる家の隣にあり。新築と見まがふ斗りの新らしき品よき構へにして、應接の間には、中華李鴻章が揮毫せし大幅をかけ、主人が諸國を遊歷せしかたみとして、熊の掌、象の彫刻、印度の珠數、同じき國あたりの赤帽、大英國女王の近ごろの寫眞など陳列せられたり。主人は、洋装にして、應接淡泊、猶豫なく、滯ふりなく盛んに多言せらるゝと思へかし。庭の后ろには、目下二三十坪の西洋風の二階屋を新築しつゝあり。ほとんど落成して遠からず、室を成さんとするの光景なりと見よ。彼女は、數度たび、クリストの名を呼び、お惠み、神の靈など云へる神聖なる文字をくりかへすとありと聞けよ。

歐米を遊歷せられ

女學校を多く實見せられつらん、何事か尤とも感動せられしやと聞けるに、第一に、家庭に於ける敎育の行届きたるとと學力ある女學生の品格の優美なるとにありと答ふ。家に於ては、主人は殊の外世話しく、夕方晩餐の卓上に於て初めてゆるりと相話すの外、子供等の上に感化すると殆んどあるなし子供の感化敎育は一切母たる人の受持なり。食事の間だも、ストーリー（お話し）を讀み聞かせてゆるりと喫食せしめ、

さま〲の敎訓を語りきかせ、明朝の科業の下よみは悉とく助力して、扨て祈りして靜かに休ます。妾の如き老年のものも、子供と同樣に取扱ひをうけ、現に此の通りの世話を受けて敎訓せられたり。其心切なると、其の周到なると。感涙したゝる斗りなりしと、其心見へて熱心に感謝せり。又、敎育ある女學生などが、何處となくオトナシク、何處となく優美なるには、甚はだ感服せられたり。すべて口數を多く聞かず、外面至つてシトヤカニに温和しくて、而して内に獨立心つよく毅然たる所ろあるを尊とむの風なれば、學問あり心得ある女學生と云へば、大抵かくの如し、これ妾が尤とも感心せし所ろなるが、歸朝ののち、所々にて今の女學生の評判を聞き、私の妻は何處其處の卒業生なるに、交際のさま、家政の伎倆は云々なりなど言はるゝを數度たび聞き、實に歎息いたしますと言ふ。

　　左らば御身は何如なる敎育を

施こさるべきやと問へば、もとより學問もなき及ばざる我身なれば、たゞ實見せしと、經歷せしとを語り聞かすの主旨にて、家の如く塾の如き躰裁にして、凡そ三十名ばかりの寄宿生を置き、起居を共にし、わが實行を見せ、日夜の間だに薫陶せんと思ふ。左らば、主として、

　　何如なる社會の子

を目的とせらるゝやと問ふに、先以て中等以上の子となさんとす、而して、追々は下等社會の子の爲めに、別に貧民學校を設くることとし、之を郷里茨城に建てんと心掛け候、すでに之が爲めに「講中」の如きものを組織し、義捐金を月々集蓄するの仕組を立て侍りぬと言ふ。

文しらべ

西郷南洲翁遺訓（完結）

（三十七）。聖賢に成らんと欲する志無く古人の事跡を見迚も企て及ばぬと云ふ樣なる心ならば戰に臨みて逃るより猶ほ卑怯なり朱子も白刃を見て逃る者はどうもならぬと云はれたり誠意を以て聖賢の書を讀み其の處分せられたる心を身に體し心に驗する修行致さず唯々樣の言々樣の事と云ふのみを知り

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たるとも何の詮無きもの也予今日人の論を聞くに何程尤もに論する共處分に心行き渡らず唯口舌の上のみならば少しも感ずる心之れ無し眞に其の處分有る人を見れば實に感じ入る也聖賢の書を空く讀のみならば譬へば人の劍術を傍觀するも同じにて少しも自分に得心出來ず自分に得心出來すは萬一立ち合へと申されし時逃るより外有る間敷也。

(三十八)。世人の唱ふる機會とは多くは僥倖の仕當てたるを言ふ眞の機會は理を盡して行ひ勢を審かにして動くと云に在り平日國天下を憂ふる誠心厚からずして只時のはづみに乘して成し得たる事業は決して永續せぬものぞ。

(三十九)。今の人才識有れば事業は心次第に成さるゝものと思へ共才に任せて爲す事は危くして見て居られぬものぞ體有りてこそ用は行はるゝなり肥後の長岡先生の如き君子は今は似たる人をも見るとならぬ樣になりたるとて嘆息なされ古語を書て授けらる。

夫天下非レ誠不レ動非レ才不レ治誠之至者其動也速才之周者其治也廣才與レ誠合然後事可レ成

(四十)。翁に從て犬を驅り兎を追ひ山谷を跋涉して終日獵り暮し一田家に投宿し浴終りて心神いと爽快に見へさせ給ひ悠然として申されけるは君子の心は常に斯の如くにこそ有らんと思ふなりと。

(四十一)。身を修し己れを正して君子の體を具ふる共處分の出來ぬ人ならば木偶人も同然なり譬へば數十人の客不意に入り來んに縱令何程饗應したく思ふ共兼て器具調度の備無ければ唯心配するのみにて取賄ふ可き樣有間敷ぞ常に備あれば幾人なり共數に應して賄はるゝ也夫れ故平日の用意は肝腎ぞとて古語を書て賜りき。

文非二鉛槧一也必有二處レ事之才一武非二劍楯一也必有二料レ敵之智一才智之所レ在一焉而已

(四十二)。事に當り思慮の乏しきを憂ふると勿れ凡思慮は平生默坐靜思の際に於てすべし有事の時に至り十に八九は履行せらるゝものなり事に當り卒爾に思慮するとは譬へば臥床夢寐の中奇策妙案を得るが如きも翌朝起床の時に至れば無用の妄想に類すると多し

(四十三)。漢學を成せる者は彌漢籍に就て道を學べし道は天地自然の物東西の別なし苟も當時萬國對峙の形勢を知らんと欲せば春秋左氏傳を熟讀し助くるに孫子を以てすべし當時の形勢と略ぼ大差なかるべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

兒藍

榮公の誕生日

しづ子

かあや、大家さんの坊ちやんナ、きんによ、ていへんと好い着物着てたと思つたらナ、あたしの誕生だつていつたぜ、それからナ、赤飯なんか出來てお客が來たりして、ていへんと賑やかだつたぜ。誕生ッてなんだナ、かあや？、

さうさナ、マア、おめへなら、おめへが始め生れてから幾年たつたつていふ日のとよ、なんのこたあねへ、人間は草だの木だの見ていに、段〱大きくなつてナ、それから一年増に年ィとるだ、さうかふすると、鎌ァ持つて來て、なんのこたあねへ、人が苅り倒すつていふ樣な塩べいよ。それでも生きてせい居れば、毎年一度ッつは、その誕生ッていのが有るんだ、ナア、死ぬまで、それで、一度誕生するたんびに年ィとるだ、本統は大晦日に年ィとるもんじやねへさうだ、おれも知んねいが。

フーム、さうかナ、おれなんざあ、まだ一度も誕生ッていのしねへから、一ッも年ィとらねへのか、ナア、かあや？豆屋のぢいさんなんか幾度誕生してあんなに年ィとつたらう？

お袋はあとの言葉は耳にかけず、

馬鹿ァいへ、おめへ知らねへッて、始めつからじやァよつぱど年ィとつたのよ、どふれ、丸年にすると、いくつだつたつけ、十一ていんだが、オヤ、さういへば、けふあたりが、おめへの誕生かも知んねへぞ、さうすると、丁度十才になるんだ、ほんとにさうかも知んねへ。

それじやァおらも好い着物着よふかナ、かあや

貧者に迫まられて、思はず兒を邪慳にするお袋も、此時なんとなく優しい心になつて、

ナア、可哀さうに、引ッつかわれて計り、物の澤山あるとこじやァ、おめへくれいまじやァ、誕生ていと、大騷ぎしてお祝ひするもんだ。けふは勘忍して遣るから、思入遊びナ、水も汲まねへでも好し守も何もするな、向裏の八公でも呼で來て遊べば好や、原ッぱへ行つて。モウちつと待つて居るとナ、かあやが横町いつて、飯屋でおこわの少し

も買つて來て遣るからナア、榮公、遊んで來なよ。
榮公は大得意になり升た。汁かけ飯を頬張つたまゝ、ガラリ箸を投げたし、土間に不行儀なる泥下駄を爪先へ突かけ早々大威張りに出て行升た。
八の家へ來て見ると、お袋は井戸傍で洗濯をして居る、其中八は言つけられて、母が手内職に綯つた麻繩の毛むしりをして居升た。榮公はいつもに似ずツンと濟して、氣の毒さうな聲を裝ひ、
可哀さうにナア、八、用ばつかり言つかつて、引ッつかわれてるナ、なれなんぞ見ろ、けふは一日何ッにもしねへッだぞ、丸で坊ちやんだぞ、よしか、
なんだ、逃げて來やがつたんだらう、今に見ろ、うちへ歸ると、おつかあにあつい思に遇せられるから。
何いやッだへ? けふはナ、おれの誕生なんだ、誕生なんか用してる奴があるもんか、それしまつたら、おつかあにさういつて遊びに來な、今にこわめしかあやに貰らふと、半分遣るから。
毛むしりは間もなく濟み、お袋の特別の許可も首尾よく貰へて、二人の子供は近邊の原へと出かけ升た。とある櫻の葉影へ腰を落つけた二人は、急に遊戯の工夫が出ませんかつた。榮公は、
暑いナア、爪もモゥ上られねへし、つまらねへや、
すると、八が、
それじや、おれが話しイしてやらうか?
面白いの知つてるか?
新規なの話して遣らあ、おめへの聞いたことのねへのォ。
やつて見ナ、サア、
昔し〳〵……………
昔しつて、いつでへ?
默つて居なつていふに、昔し〳〵、人が有つてナ、煙草ォ吸付けてナ、それから歩るき出したと、眞直ぐに歩るき出したと、歩るくとも、歩るくとも、(一層調子を變へて)歩るくとも、歩るくとも、(再び調子を變へて)歩るくとも、歩るくとも……………………
なんだ、八公、ていへんと歩るく奴だナア、いつまで歩るいてるんだ?

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

まだ〳〵、いくらも行ねへや、せいからまた、歩るいたと
も〳〵、〳〵、〳〵、〳〵、〳〵、〳〵、〳〵……
流石の榮公も今はヤツきとなり、
エー、コー、ていげいにして歩るく話しはよしない、歩る
いちまつたら、どうしたつてんだへ?
八公は平氣で、
歩いちまつたら、行ふていとこへ行つたのよ、あたりめへ
じやねいか?
本當か? おれアまた、いつまで行つても、〳〵、行つかね
へのかと思つて心ぺいしたんだそれから、どうしたんだへ
?
それからか、それから、直ぐと始め來たとけへ歸つたつて
よ、それで市が榮へるんだ。
なんだ此野郎! 人を馬……………
ホカアリ友だちの頭を撲り升た。すると、八はすかさず、一跳
退つて、頭を抱へながら、アツハヽヽと大笑ひをいたし升
た。榮公も知らず〳〵興につれられて笑ひ出し升た。其樣
子を見れば、拳固も何もさ程悪意あつてのあらわれではな
く、撲ぐるも、なぐられるも、此邊の交際には樂其中にあり
といふ鹽梅なのでせう。興味は漸くさめた頃、兩人はまたも、
何をして遊ばふといふ相談にかゝり升た。あれのこれのと、
さま〳〵案は出た樣でしたが、平常ならば、兎に角、誕生日
といふ大事な日、特別なゆるしが出て、思ひさま遊ばふとい
ふ時には、どれも充分と思へないので、榮公の方で、一々不
平を唱へ升た。双方考へが盡きて、姑らくだんまりで居たあ
と、榮公は、
おめへ、モウ何にも思ひつかねへか?
おらあ、腹の底の底の底まで考がへちまつた。
それぢやアナ、おらあ、ちやんがいつたが、なんでもゑら
く考げいものする氣なら、なんでも、後ろへひつくらけい
つて、寐てぢつと眼ィつぶつて居ると、なんでも好なとが考
へ出されるてんだぜ、やつて見よか?
二人は早速此發議に同意して、櫻の下へ長〳〵と寐そべり升
て、八は先づ第一に考案が出來る樣でしたが、何だといふ
と、たゞ自分も誕生日が欲しいもんだといふ丈でした。榮
公の方は考へといふ考へは何も出ない樣でしたが、軈て、何

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

となく浮んだといふは、いかにも〳〵不思議で、夢幻にでも有さうなとでした。榮公はてもなく廣い畑へ急に出た心もちで、一面に生へて居たものといへば、麥でなく、蕎麥でなく、野菜ものでなく、豆でなく、また榮公が一度も見たとのない作物でした。どんな物といふと、有平糖の軸に煎餅の葉が賑〳〵敷茂つた、世にも不思議な作物で、眼の屆く限り同じものがつくつて有升た。中にも榮公は其作物になつて居た不思議な菓物に驚ろき升た。饅頭があるかと思へば、近頃流行の鐵砲があり、今さかが下つて居ると思へば、兼て慾いと思つたブリキ製の自動滊車がなつて居升た。其他、榮公が好だと思ふおもちや、食べ度と思ふ甘いもの、鰻めしやら、おすしやら、枝まめまでゆでて、はぢくばつかりになつて木に熟して居り升た。かふいふ作物は捨て置いては損だ、早速收めるが好といふとに氣がついたのは實に無理からぬとです。誰が作つたものか知らぬが、なぜこんなに打捨て置いて、折角のとり入もむざ〳〵腐らせてしまふのかと、殘念で、口惜くつて、腹が立つてたまらず、早速自分が手傳つてつかわさふと考へると共に、手始めに先づ鼻の先の大福を一ツちぎつて頬張らふとすると、アラ悲しや、くやしや、いつの間にか自分様が、榮公さまが、大きな水瓜と化けてしまひ升た。ゴロりとそこへころがつたは好が、さて〳〵見んとなり下つた結搆づくめのものには一ツも手がつけられませんかつた、つけたくも出す手を持ちませんかつた。さうする中に、稻荷ずしの化物に似た小鳥が飛んで來て、自分を啄くと見升たが、どふやら、

榮公！榮公！榮公やア！

といふ聲が頻りに耳にはいり升た。ビックリして飛び起ると自分は例の櫻の木の下に寐て居た鹽梅で、不思議な畑はいつの間にか、消へうせてしまひ、迎ひに出て來たお袋は焦〳〵しながら自分を呼立て居り升た。

榮公つていば、なんだナア、寐そべつちまつて、やくざな野郎だ、家へけいつて早く赤ン坊、ひつちよわねへか？

榮公は呆れて口が塞がらないといふ處で、

なんだナ、かあや、誕生だから、一日遊ばしてやるつていつたじやねいか？

さうよ、さういつたが、あとで勘定し直して見れば、おめ

への誕生はとふの昔し先月濟んぢまつてた、サア早くけいんな、赤が泣てるから」

家政

幼兒の玩具に注意せよ

溪流女史

およそ生きとし生ける者は、いかほど心なげに見ゆる者も、己が子を愛くしまぬ者はあらじ、まして人と生れし身は、たとひ其心鈍く、其才足らずとも、此情のみは、燒野の雉子、夜の鶴に劣るべしとも思はれず。さるに世は此望とうらはらにて、むつかしき世の交際なにくれと心きゝて、取まかなひ、さかしげにものいひ、打振まふ大人の、思ひの外にこの道に躓く、しかも冷かなるありさまを見もし聞きもする事の多きこそ、まことに心得ぬかぎりなれ。

さはいへ誰れか、其子の良く育たん事を願はざる者あるべき、たゞいかにせば、よかるべきか、其術法を知らざるによるならん。かく考ふれば、母親の不注意なるは怒るべきことにあらず、罵るべきことにあらず、謹で教導すべき一事あるのみ。

世にはかゝる心もてる人もおほく、育兒教育の道開けざるにもあらねば、これらの事論じたる書物も少きにはあらずといへども、多くは精神的のむつかしき事にて、たとへば「母親の一言一句、一擧手一投足も、なべて其子の摸範たれば、苟くもすべからず」とか「幼兒の居間は大人の寄合ひて談話などなす處と隔たるべし」などといへる如き、いづれもさあるべきはずの事ながら、始めて育兒法などに心をとめ、そが書物なんど手に取れるほどの人には「こはとても凡人に爲し得らるべき事ならず」「かゝる生計の度にては行ひ得べき事にはあらず」など失望し、はては幼兒教養の議論は單なる理屈にて、平凡の人が通常の家にて、行ひ得べき事にあらずとまで思はしむるに至らん。

かくて金玉の勸告も、架空のはなしと同視せられ、理論は理論として價あるも實際には用ひられぬものぞ、との誤解をもおこさしむる事往々ありときく。

されば、わがこの論も、それらの點に心し、主觀上のむつかし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

き事はさしおき、客観上のやさしきことがらよりはじめんと撰びしなり。もし果して易きより難きに進めといへる、教育上の原則にあはば、唯編者がさいはひのみならじ。

そも玩具を幼兒に與ふる主旨は、いづれもそを歡ばしめもし、慰めもせんとするにあれば、年齢と智惠とに應じて

趣味ある物

なるべきはいふまでもなし、たとへば眼のはたらきのみやゝ備れる幼兒には、いかほど精巧なる玩具にても色彩の注意を呼びおこす物ならずば、美しき旗、繪紙もしくは紅の花、風車の如きものにすら見かへらるべく、既に物音などきゝわき、歌聲などに耳傾くるほどともならば、笛つきのがら〳〵、振皷などぞ、單なる風車には優りて歡ばるべき。猶智惠づきて、母親の顔など見覺ゆるまでとならば、

變化ある物

を好むに至らん。されども滿五ヶ月より一ヶ年位の間は、大人が考ふる如きむつかしき繁雜なる變化をのぞむにはあらで簡單なる變化にて、其滿腔の希望をみたし得るものなり。たとへば靜なる庭の樹立の、風にさそはれて搖るゝも、木の葉の散るも、玉水の落つるも、球のまろぶも、物の倒るゝも、或は犬猫の戯るゝ、往來の人の變りゆくさま、水の流るゝ、車の廻る、一として幼兒がさゝやかなる望を滿足せしめざるはなからん。而してかく變を好むは既に記臆力多少發達しておのが身に近き者は記臆し、既に記臆すれば更に新なる他物を求めて、限なき智識の要求をみたさんとするにあれば、此をりをすごさで其念をみたしめ、生涯の幸福なる心情を養ふべきことこそ必要なれ。心して見ば、風に誘はれて廻る風車、振るにつれて音する振皷いづれか、智識のもとならざるべき、されども一歩を進めて考へなば、これらはいかに精巧なりとも、人の工夫して作れるものなれば、たとひ其根元まで推し究め得たりとするも、人生の大秘密をさとらしむるには足らざるべし。

あゝ人生の大秘密

なる問題は、むつきの内より、着手するには猶はやかるべきか、否々胎教すら、所謂天性なるものを、幾分か左右し得べしといふ、まして乳の味を覺え、母の顔を見知り得る能力ある幼兒なれば、その時期には、既にかゝる大問題をも、そ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の白く清らかなる腦に刻すべき必要ある事は論ずるまでもなからん。さていかにせば、かゝる觀念の基を置き得べきか、其多分は

生活力あるもの

を弄ばしむるによる。生活力あるものとは、かぎりなき天地の惠に咲ける美しき野の百合、双々花にたはるゝ、愛らしき胡蝶はいふもさらなり、家に飼ふべきものには錦魚、南京鼠、猫犬、さまぐ\の小鳥くさぐ\の虫類などこそ養ふてむつかしからで、幼兒の歡ぶものなれ。ことに歩むほどともならば、園をつくり、花木をうゑ、そが芽ざしより、また蕾より、生ひ出つるさまを見もし、見せもして、よく生ひ行くさまを、語り聞かせなどするにこす事あるまじ、又虫類などを養ひ、その習慣など知らしめおかば、生長して後も、故なく虫ぎらひして、驚き恐るゝ事なきのみか、幼兒より手ならせる虫の、習慣性質などが、意外に趣味を生じて、後終に有名なる動物學者となれる人我國にも今現に其例あり、これらはもとより天授なるべけれども亦以て玩具に注意すべき一證ならんか。軈て幼兒は外に出づるを喜ぶものなれば、この性質が自然にかなへるはいふまでもなし、こを利用して造化が奧妙不可思議の手に作れる、森羅萬象を觀察せしめ、これを大にしては、後來宇宙の眞理を悟らしむるのもとゐとし、これを小にしては、現在新奇を好むの情を滿足せしむべし、かくは論ずれども、あながち、自然物のみを用ひよといふにはあらず、たゞ世人が、かくも巧妙なる天然の玩具あるにも係らず、これを見る事冷淡にすぎ、不完全なる人造物ならでは玩具はなきものよとあきらめ、苦しんで滿足せんとするの、ことわりならぬを述べたるのみ。もしよく人造の玩具もこれを擇むこと理にかなひ、長を取り短を捨てなば、其効なかぐ\に多かるべし。まづこれを擇むには、

進歩の精神あるもの

を考ふべし、もし多少の人力を加へて、本來の品質より一段優れる品となるもの又はこれを組みたつるによりて種々なるものとなるべきものあらば、これぞ、進歩の性質ありといふを得べし、たとへば吹きて鳴るべき笛類、振りて音をいだす鈴のたぐひ、幼稚園にて用ふる積木連板の如きこれなり。

されどもかゝる玩具類もしくは他のものにても、往々

有毒なる繪具にて彩色せるものあり、勿論、公よりも、これらの取締は、ありときけど、猶母親が綿密なる注意を要すべし、たとひ劇毒にして一度これを舐らば、立どころに死すとまで至らずとも或は自然と皮膚を犯され、或は漸々に血液をけがすべきもの等は、何れの玩具店にも多少あるものなり。しかるにこれをかの指または玩具を常々口にいるゝ習慣あるものに與ふるはまことに危きかぎりならずや。されば幼兒の手に取るほどの玩具はなるべく彩色あるを避くべし、若し已むを得ざる場合には、洗ひ得べき木造のものなどはあらひて與ふるもよからん。たとへば紅色のものは熱湯をそゝぐによりて色を失ひ、紫、緑なんどは石鹸にて大かたは落つべし、されども繪具一定せざるをもて今こゝにあげつくしがたし。この他種々の、

ブリキ細工等は危險なり

たとひ玩具ならざるも、諸種のブリキの鑵、石鹸函の類など總て幼兒に、手を觸れしむべからず、ことに切物類はいふまでもなけれども、ゆるがせに取あつかふ事なかれそも大人にありては、恐るべきほどの傷ならずとも幼兒には存外大事に至る事あり、ことに身躰と共に其傷の漸々發育するを知らば、苟の傷も容易ならざる事を知るを得べし。

贅澤なるもの

も亦忌まざるべからず。たとひ親戚知己の厚意なる贈物たりとも、通常實用の品物よりも贅澤なるものは決して幼兒の玩具となすべからず、人或は贅澤物が、多く巧妙なる工夫を作れるに迷ひ多少智識の發達に益あるが如く思ひ、甘んじて與ふるもあれど幼兒は決してかく巧妙繁雑なるものに、趣味を感ずるものならで、却て、純粋素朴なるかたを歓ぶものなり、これ一は幼兒の心力が純粋素朴なるをもて、さる者ならでは理解し得られざるによるべけれど、又吾々が先天的に純粋無垢なる幼時に於ては、外見的の驕奢を厭ひて、實用的の素朴なるものを好むの良性あるを知るに足るべし。然るを何を苦しみてか、強ひて驕奢の階梯たる高價の贅澤品を與ふべきや、願はくは心ある母親たちの一考を乞はん、又

破壊しやすきもの

は市中にて求むる玩具に甚多きものなれど、こは總てよろしからず。能く／＼注意すべきよにこそ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雑録

悟道警録（一）

愼獨學人

〇大道坦々、修德易々

熊本は水泳術に勤むる藩なり。或る人、容易すく其術に達すべき心得を聞かんとて、斯道の師匠がりおとづれ、ゐんぎんに懇望せしかば、直ぐさま傳授すべし、椽側に廻れよとの事ゆへ、雀躍して庭口より入り、秘傳如何なるとやと胸を騒がせて相待つ所ろへ、師匠出で來り、彼人をして裳を蹶げしめ矢立を取出して筆に墨を染め、やをら脛の中ばあたりに黒線を引くと、双の足に相同じ。是にて御傳授了れりとて扨て申すよう。此の線より以上の水量ある深みに入り玉ふと勿れ。然すれば、何如なる所にても進退自由にして、溺るる掛念曾てあるとなし。之を水泳の上乘となすぞ。

評に曰く、卜傳が荒馬を制し、家康が丸木橋を超ゆるの覺悟みな同じ。道の極意は、無理をせざるにあり。偶ま無理を爲すときは、無理を爲すべきの理に隨ふにあり。理はスヂ也。スヂに順從して、其行を之と調和せしむ。此に於てか、矛盾なし、衝突なし。ゆへに平和なり、ゆへに安心なり。こゝに立命の地綽々として存す。

〇二人問答

世の中は乗合船のつり住居よしあし共に名所舊跡　蜷川

悟りなば坊主に成な魚くへ地獄へ行て鬼に負るな　同

此世にて慈悲も悪事もせぬ人はさぞや閻魔も困り玉はん　一休

佛にも成固まるは入らぬもの石佛らを見るに付ても　同

佛とはなんだらぼうし柹の種下駄も佛も同じ木のはし　蜷川

妻や子がそばで歎くを聞入ず死んで行く身に何の引導　同

極樂は十万億度はるか也とても行れぬわらじ一足　一休

浮世をば何の絲瓜と思なよぶらりとしては暮されはせず　蜷川

あら樂や虚空を家と住なして心にかゝる雑作もなし　一休

心とは何如なるものを言やらん墨畫にかきし松風の音　同

悟り得て心のやみのはれぬれば慈悲も情も有明の月　同

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

書架

○預言者以賽亞

神風の吹くが如き調を以て、花の開くが如く、火の燃立つが如き文字を行るは、近著「以賽亞」の作者か。たゞ、文字の結構に餘り多く拘はりて、精神の修養に餘り少しく顧りみたるかの憾みなきにあらねど、正さに文界の一才筆、基督教内稀々として有望の文士を出すとして、感謝すべき哉。冀はくは、自重せよ。

○小說百家選

第六卷に、紫山人のから衣、及び、乙羽庵の出世奴。第七卷に、江見水蔭が、船頭大將、金子春浦が、銀杏がへし。第八卷に、南翠外史が、常陸帶あり。

○敎理講話

增野悅興氏、基督敎革新會を起し、自今「敎理講話」を發行せんとす。今ま第一冊を見るに、神權の源を論じ、ブリツクスが三座說を尙ほ啓しとして、基督、クリステアンの實驗、敎會の實驗、及び理性の四座にありとし、彼の一偏に偏したる反正敎(プロテスタンチスム)、神秘敎(ミスチシズム)、羅馬敎(ローマニズム)、惟理敎(ラシヨナリズム)等の誤謬を指示せり。論理明晰、文辞雄勁、所云る生命ある信仰、嚴格なる行狀、健全なる思想の三者を兼れ要むるの精神紙上に顯然たり。然れど、吾儕は、神權を斷ずるに、三つ四つと云ふ定坐にのみ、委賴するの要なしと信す。基督の敎理は挾きものにあらず、何んぞ宇宙間のすべてのとを採つて之を斷ぜざるや。彼は神にして世に來れり、故に天と地とのあらゆるものを擧て之に開くの準備なかるべからず。

○家庭之和樂

民友社は、十冊完成の家庭叢書を發行せんとて、こゝに六月第一卷を出す。專ぱら家庭の和樂に就きて說けり。其の平易にして淡泊なる所ろ優れたり。第二卷は、夏の家庭と題するものゝよし。

○眞正なる子供敎育所

は寧ろ學校にあらずして却て家庭にありと、獨逸よりの新歸朝者相川かつ子女史は演說せり。子供の敎育と云へば、小學校にあり、幼稚園にありと思ひがちの時弊に對しては有益の演說なり

○天下の士

國民子、近日天下の士を論ず。曰く、總合大觀豈に他あらんや、一代の風潮を我に吸收する耳と、此篇近來の好文字。就中、民友子の所論として、尤とも卓拔なるものと云ふべし。但だ夫れ天下の士とは、主として社會的政治的の上より着眼せらる。其以上更に天地の士あるを辨ぜざる可らず。天下の士を重んずるを知つて、而も天地の士を重んずるを知らずんば、深邃の哲學、極微の理學、純清の美術なんどは、大率ね無用として擯斥せらるゝとなるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○經濟家徇ほ徒らに平和を望まず

經濟子曰く、日本政府は、支那が朝鮮政治に干渉し東學黨を討伐するに就いては、十分に之に反對するの理由を有せり。其理由とは何ぞ曰く、日本の利益に害ありとの一言これなりと。財政革新會亦た議決して曰く、本會員は對外軟の意見を有するもの一人も無しと。自由貿易論者すでに斯の如し、對外硬の精神は輿情なり。此の國民的元氣に推されつゝ、政府何を苦しみてか躊躇するや。

○噫、大日本教育會

大日本教育會の惣會に於て、會長辻君赫として一と度び怒り、即座、惣會を解散せり。其理由は、學政に關はりたるを議論せしが故なりとぞ。噫、大日本教育會。かつて一度は、發奮して政論を爲さんとし。次の一度びは多數に乘取られて、政事を論ずまじきとなり。今まは亦た多數の起立の爲めに學生の論議を中止すると能はず。會長こゝに於てか辭職したり。

○尤とも愉快なる時機

惣撰擧目前に迫り、半島の風雲存外に荒し。此機なことに大有爲の機。薩長諸公末路の大氣焔を吐發すべきか、もしくは處女焉として脫兎の名殘を葬むるべきか。乾坤一擲の大戰爭、何れにしても近づけり。

○伊藤、對、大隈

六派連合してより、薩黨の確執橫さまに解け、多年の誤感一朝夕にして洗はれたるが如し。見よ、彼の品川子すら、大隈伯に感服するに至りしならずや。議院の戰ひは、彌よ、伊藤對大隈と明らかになり來らん。これ實に當然の成行也。

○文界寂寥

文界のさびしきを奇しむなかれ。文に寫すべき現時代其ものゝさびしきを如何にせん。今や、時勢は、混沌擾亂して、未だ定まらず。文も亦た其の定まらんとする方針を望んで、同もにためらはざるを得ず。

○官設鐵道の拂下

一億万圓の大金を募つて、全國の官設鐵道を悉とく拂下げ、

東西南北のあらゆる鐵道を、悉とく私有にせんとの大計畫現われたり。鐵道は、國道なり、悉とく私有たらしむべからず。止むなくんば、蒸滊車の通行權をのみ私有たらしむべし。而して、時あつてか二會社以上をして競爭せしむべし。

○中學校の實科

學校組織が追々世の實勢と調和するは、祝すべきと也。教育は、官吏もしくは政府の爲めにするものならねば、社會の實况と相ひ照應するが、當然の事なり。

○黒死病

コレラ、インフルエンザ。而して、黒死病。すべて身躰といへども、續々に新らしき迫害にあひ、之に優勝して彌よ其運命を健やかにせざる可らず。新らしき病氣の入り來るは、交通の開けたるが爲め也。之によりて、衛生方も進步すべし、國民の躰力も益々健康となるべし。

○李鴻章の狼狽

李伯、狼狽すと、新聞紙上に喧傳するは、狼狽したるならんとの想像説なり。而して、かゝる事に狼狽するならんと想像して安心する想像家こそあわれなれ。そも〳〵一人物の狼狽は、如何なる耳目によりて見聞するとにや。

○淺間山爆發

爆發は、上州まで來りぬ。遠からず、大地震も、都の近邊に來るなるべし。日本の大革新は、つねに爆發と地震とに緣あり。天の警戒になまぬるきものは、たゞ〳〵后にて悔やむの外なかるべし。

○近衛公爵

果して其名あがれり。果して過渡の惣理大臣を以て擬するものあるに至れり。此回の游説の如き、非解散意見の如き、共に當を得たり。たゞ一事を望む。冀わくは自重して、無益の歷史を身邊に纒はしむると勿れ。異日一層の大衝突あらん時同志華族を引率して、闕下に伏し、尤とも、公平に、尤とも正大なる國民の熱望を陳奏するは、則はち此公の任にあらずや。

○東學黨を懐ふ

嗚呼、東學黨。汝は韓山の國粹保存黨なり。半島に於ける眞とに氣骨ある男子、多くは汝がうちに在らん。惜しひ哉、忠誠普ねく知れず、單に守舊頑陋の徒を以て目せられんとす。む

かし我國に國粹保存黨なるものありき、神主坊守僞愛國者などが之に馳せ加はらんとして反つて寃名を負いしことを知らず、今に方つて朝鮮東學黨中の眞の丈夫が爲めに、切りに同情の涙あり。

○朝鮮醫業獎勵會

有志二十七氏、題號の會を設け、醫師八名を韓國に移植し、日韓兩國の交情保維を家庭より及ぼし來らんとす。是れ實に朝鮮に對する妙經綸なり。左れど、其醫師は成るべく女醫を撰まざる可らず。然らざれば、其功、其思ひの半にも及はじ。夫れ女醫を朝鮮に送らんとは、吾黨が生平深く熱望して止まざる所ろなりとす。

●國民新聞の評　去る十七日の同新聞は、本誌第三百八十號の「戯曲及演劇の改良」の言を拔抄し、評して曰く、吾人は公衆を標準とはせで自己の理想を本とする改良論の非なるや否やを知らず、又た現今普通の看客は多年の習慣により幕開中恍惚たるや否やを知らず、されど記者の所謂「行ひ得べき改良」數件は、平正にして同意すべきを覺ゆ。

●山梨日々新聞の評　去る七日の同新聞は、本誌第三百八十二號を評して曰く、「名士之恐、存乎閨房及庖厨」好い處に御氣が附かれたものかな是れ實に大事實なり古を稽ふるに及はす現在の名士なる人々は實に之が證明者たるにあらすや誠に然り有志の此點に冷淡たる我れまた同慨「南洲翁の遺訓」有り觸れたるものなれども愈よ讀んで愈よ味あり若松賤子譯の「幼兒家庭教育の原理」母たるものゝ心得ざる可からざる所なり「時論四則」の第一は條約厲行を論す曰くさ女學子且つ論ずる如此、堂々たる六尺の大男兒　尙ほ之を悟らざるは何故ぞ女學雜誌の本號は近來の上乘なり

●時事新報の評　去る十三日の同新報は本誌三百八十三號を評して曰く、社說に政治上の意見を述べ論說に學問上の議論を掲げ其他南洲翁の遺訓あり婦人養蠶家の小傳あり就中透谷庵を弔ふの文は簡頸にして能く精を盡くす近來の好文字さ云ふべし

時報

◎學校、敎育

●家事科及び裁縫科の檢定試驗　東京府の同檢定試驗は去月二十二日より二十六日迄、東京尋常師範學校内にて執行せられしが、其試驗問題は左の如し

(イ)家事科及裁縫科正准教員試驗問題

（一）裁縫を教授するに如何なる順序を以てすべきや、幷て其の管理法は如何にすべきや、其概略を記すべし

（二）並巾四丈を以て上着無垢の裁ち方及び寸法如何にすべきや、丈二丈三尺六寸を以て下着廻り無垢一枚の裁ち方、寸法を記すべし、但上着袖丈一尺六寸

（三）一尺一寸巾の片面染を以て三身被布の裁ち方及び寸法を記すべし、幷せて縫上りの寸法を記すべし

（四）並巾五丈九尺にて左に記する處の中、裁服表一枚四身一枚（相當の腰揚をなすと）羽織一枚の裁ち方、寸法を記すべし

（五）二尺巾一丈〇五寸を以て本裁女並袴の裁ち方、寸法を記すべし

縫物　白羽二重單羽織の半身(但し二時間半)二分の一
一ツ身綿入の實物六時間(正雛形女帶小兒の西洋前掛)

(ロ)家事科問題

（一）居住すべき土地の撰び方詳に記すべし

（二）衣服の洗濯法に付き注意の點を記すべし

（三）家計簿記の効用を記すべし

（四）小兒の體育に付き注意すべき諸種の心得を述べよ

右三問　准、右四問　正。

因に云ふ家事科の試驗を受けたる者は右(イ)(ロ)の問題全體に答へたるにて裁縫科の方は唯(イ)の部に答へしのみなりと又右の試問に及第して資格を得られたる諸子の姓名は左の如し

家事科准教員(四名)

内田つる子　西村さたゑ　島田みや子　駒井さめ子
田原しづ子

家事科正教員(一名)　角田りん子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

裁縫科正教員(一名)加茂れい子
裁縫科准教員(十六名)

水野ゑい子　高橋ゑい子　卜木とき子　濱　もと子
阿保むつ子　鈴木むら子　山口よし子　宮崎愛子
清水けい子　白井しづ子　石元まつ子　笹間はる子
山田せん子　柏木みき子　福岡いそ子　本間ひさ子

●華族女學校及び幼稚園　華族女學校にては本年九月初等小學科第三級(年齢凡滿六年以上七年未滿)に三十名自餘高等中學科(同十五年以上十七年)迄高等小學科(同九年以上十二年未滿)及小學科(同七年以上九年未滿)諸級に三十名鈌員ある由にて士民の女子にても入學を許すよし尤も三級の向は來月十日迄に出願し入學試驗は同月下旬に施行する筈なりと幼稚園の方は何時にても男女幼兒の入園を許可するよし

●遺愛女學校　函館元町なる遺愛女學校に久しく椅子を取り居たるアウガスタ、デカーソン孃は赴任以來滿五ヶ年なるを以て本年より一ヶ年間の休暇近日歸省の途に就かるゝ由同孃は米國比府の生にして幼時方教育事業に志厚く遺愛女學校へ任となりてより身も魂も日本婦女子教育の事に犧牲とし早く人情風俗を學びて教育の方針を定め同情を以て生徒に交り公平を以て之を治め大に校規を振起して今日の位置に進めたる等其功最も多し故に同校の生徒は幼年生に至る迄も僅々一年の袂を惜み制するをも聞かすして密かに見殊なる贈物を整へ居れりと云ふ師弟の情には内外人の差別なく孃も寢食を共にしたる愛する生徒を殘し一ヶ年を不在とするはいかにも忍ひずとて故鄕の旅も心引かるゝとのみ多き由を聞けり又同校へ數日前にシンカー孃と云へる音樂の教員米國より着したり本國フヒラデルフヒヤ音樂大學校の卒業生にて若齡にして既に美妙の名を其鄕土に轟かしたる人なりと孃來りて未だ其音樂の妙趣を函館人に聞かしめざれは音樂熱心家は耳を洗つて待ち居れりと云ふ(函館新聞)

●赤貧者兒童就學奬勵　鳥取縣日野郡戸尋常小學校内に設けたる日新教育會の赤貧兒童就學奬勵の規則を得たれば左に掲ぐ

第一條　本會は本郡第四第五第六組合内各小學校下赤貧者にして其子弟を就學せしめ他の摸範となるべき者には賞品及感狀を贈遺し之を奬勵するものとす

第二條　各會員は前條に該當するものありと認むるときは詳細なる事實を具し本會に通報するものとす

第三條　本會は前條の事項を審査するため委員長一名委員五名を置く

第四條　委員長及委員は會員中より互撰し其任期は各一個年とす

第五條　審査會は會長必要と認むるときは臨時之を開くものとす

但し委員總數三分の二以上出席するに非されば之を開くとを得す

第六條　審査會は過半を以て決す可否同數なるときは委員長之を決す

第七條　審査内規は審査會之を定む

第八條　贈遺すべき賞品は左の三等に分ち感狀を添ふるものとす

一等　算盤　一挺　二等　硯　一個　三等　石盤　一枚

但し時宜により他の物品を代用することあるべし

第九條　感狀書式左の如し

(用紙半紙)

感　狀

教育の缺くへからさるを察し家計不如意なるにも拘はらす何(男、女)(或ハ弟妹)某を就學せしめられ候段感するに餘りあり玆に本會の決議を以て目錄の通り贈遺候也

明治　年　月　日　　日新教育會

何　某　殿

目　錄

一何品　　何々

以上

第十條　此規定に該當するものあるときは其住所氏名及事實を具し郡長に報告するものとす

●官公立學校生徒の費用　官公立諸學校の生徒を教養する爲めに要する費用には、實に莫大なるものにて、帝國大學生一人に付きて、一ヶ年に國庫より支出する金額は三百八十八圓十錢にして高等師範學校に至りては、一人に付五百五圓八十五錢の多額に及ぶ、驚くべきものならずや即ち左表を見よ

校名	校數	生徒數	一箇年經費	一人の經費
帝國大學	一	一、三〇八	四〇三、〇二七、〇〇〇	三〇八、一〇〇〇
高等中學	五	二、八四六	二、七〇六、九三一、〇〇〇	九五一、一〇〇〇
高等師範學校	一	八〇	四〇、四六八、〇〇〇	五〇五、八五〇
女子高等師範學校	一	八四	四二、五五六、〇〇〇	五〇六、六二〇
尋常師範學校	四七	五、一九六	七六〇、三七二、〇〇〇	一四六、三一八
尋常中學校	四四	一〇、九四一	三二〇、七七六、〇〇〇	二九、三一九
小學校	二四、六二五	三、〇九一、五四三	七、六四六、一三一、〇〇〇	二、四七三

●女子の中等教育　「教育報知」說を爲して曰く近來中等教育の事次第に世人の注目する處となり頻りに此を調査改良したる結果頗る見るに足るべき者と爲り來れり然れとも是れ多くは男生の中等教育に止まるのみ女子の中等教育に至ては未だ一人の之を調査研究せるなく殆んど棄てゝ顧みざるの狀なきに非す何ぞ一に熱し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て他に冷なる此の如きや思ふに女子の中等教育は或點に就て男子の中等教育よりも貴し何となれば女には男子に比して信する所薄きが故に往々此時期に就て女子生涯の信仰を誤ることあればなり然るに此を思はすして只從來の成行に任し恬として之を問はさるに至ては女子教育の將來も亦甚危うからすやと

◎美談

●貞女中村とゑ子　は佐賀縣杵島郡錦江村亡貞助寡婦にて夫貞助重病に罹り家計日に窮迫を告ぐるに際し尫弱の身を以て晝は傭稼に務め夜は紡織を事とし以て家政を維持し傍ら病夫を護る傍、幼兒を撫する慈以て夫死亡の後も能く遺跡を保ち貞操を變せざること多年一日の如し洵に奇特なりとて其筋より賞金二圓下賜せられたり。

●篤志家　奈良縣式上郡纒向村大字辻辻保太郎氏は此程書面を以て廣島縣廳へ孝子貞婦義僕等にて賞與を下賜せられし向きあらば相當の金品を贈與致度きに付人名取調べ報知せられ度しと頼み越したるに付き同縣廳より奈良縣へ照會を爲したる處同縣よりの回答に依れば氏は農業專らとして傍ら質屋業を爲し居り同地にては名望家なりとの事なり篤志家と云ふべし

●貞婦木下まつゑ子　は富山縣射水郡大嶋村大字南高木村平民木林德平妻にして平素姑舅に事へて孝順夫德平嘗て刑に觸れ縲絏の中にあること十年家計之がために窮困に陷り老幼六人屢々饑餓に瀕するに至る然るに身纖弱の質を以て專ら農事を勵み傍ら他人に傭はれ辛苦經營能く一家を維持し殊に女子の教育を忽にせさる等二十三年一日の如し其操行の堅實なる洵に奇特なりとて賞金二圓五十錢を下賜せられたり

◎片々

●窮民の慘狀と婦人慈善會　德嶋縣三好郡山城村の婦人慈善會に就て德嶋日々新聞の記する所によれば今回三名村窮民の慘狀は聞きしに優る預想外なるにぞ差向き九十一名の婦人慈善家より義金を募りて同新聞社に送付したりとそ又同會より寄せたる書翰の中に云はく

妾等の最も心を痛ましめしは婦人と小兒の狀態にて彼等は全く滋養なる草の根、木の葉、蕎麥皮、麥糠等を常の食とせしものなれば身躰衰弱して幼兒を養ふの榮養なく乳房は恰も七八十の老嫗の如くなれば之を口に含ましむるも小兒の腹を飽かしむること能はず乳の代用とすべき粥をたかんにも米なければ詮術なく僅に麥糠を煉りて口に含ましむるも大人すら食ふに堪へさるものを如何でか乳飲兒を養ふことを得べきや妾等の如き兒を育てし身に取りては忽ち胸塞がりて食事さへ喉を下らざる程なりし云々

●女子の筆生　茨城縣河内郡龍ケ町役塲にては土地臺帳附合の爲め此度女子を採用したりと

●大日本婦人教育會　去る十六日鹿鳴館にて、南條文雄（國史中の佛語）槇本善治（日本婦人の天職）の二氏の演說ありし由。

●山田米子女史　の遺稿追悼詩歌共一册となり近日世に出んとす。矢島かぢ子女史、山田の米の歌によりて落穗と題せらる。

●東京の大地震

本號二十三頁下段「淺間山爆發」は去る十九日（火曜日）午後、編者が記したるもの、然るに翌二十日午後二時零四分十秒、少しく家屋の震搖を覺ゆると間もなく一大震動を起し、人走り犬走りて市街大騷動とはなりぬ。人馬の死傷あり、火事の起るありて、安政元年以來東京には、未曾有の激震なりし。宮城内御門脇の土塀に龜裂を生じたるを始め各官省の煙突破壞し、内務省の被害、赤阪兵營の被害殊に甚だしく、其他の被害は之を校正する時まで、實況明白ならざりし

（校正者某附記）

●中央氣象臺　の驗測によれば

發震時	二十日午後二時零四分十秒
震動時間	四分四十八秒
震動の方向	南西、北東
最大水平動	一、三秒時間に付七六粍（曲尺二寸五分一厘弱）
最大上下動	一、〇秒時間に付一八粍（曲尺三分三厘）
性質	急劇
記事	此地震は最初上下水平兩動一時に起り七秒時を經て俄然前記の最大水平動に達し爾後顯著なりしこと十七秒時間にして漸次微弱となり靜止せり

●又同臺にて昨日午後三時四十分迄に得たる報告は

東京	二時四分十秒	強	烟突破壞す
横須賀	二時四分二十秒	強	
沼津	二時三分二十五秒	強	
宇都宮	二時四分十六秒	強	
前橋	二時五分	強	時計の振子止まる
名古屋	二時四分四十四秒	弱	
岐阜	二時四分二十八秒	弱	
銚子	二時四分〇〇秒	弱	
大坂	二時四分〇〇秒	弱	時計の振子止まる
境	二時七分〇〇秒	微	

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

鈴木弘恭大人講述

第五版 **百人一首講義**（附錄小倉てびき）

正價 金廿八錢
郵稅 六 錢

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第四版品切に成りたれば玆に第五版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得て至極重寶なり

大勳位山階宮晃親王御題字
御歌所長高崎正風大人序歌
御歌所寄人勤大人序文
雅樂侍稅所敦子刀自序歌
池袋淸風大人著

歌學標準 **淺瀬の波**

第二編 全二冊
正價金三十二錢
郵稅 四 錢

本書は方今和歌專門の大家として有名なる案山子酒舍大人の詠及全國に散在せる其社中男女三百餘名の詠七万餘首の內より九十三名の秀逸を精選し併せて大人の歌友大家十餘名の妙吟五百七十餘首を集錄せられたる歌集なり初篇は既に六年前世に出て大に風流雅客の嘆賞を博し世人の傳唱する所玆に贅せず

東京華族女學校學監下田歌子先生序
全 囑托教授關根正直先生編輯
全 敎授坂正臣先生編輯幷書

筆のゆきかひ

全二冊一冊
正價金廿八錢
郵稅金六 錢 宛

本書は多年女子敎育に從事せらるゝ兩先生の編輯を請ひたる所にして文躰は古雅に過ぎず卑俗に陷らず優美にして實用を兼ねたる女子消息文の模範たり且旁ら習字の手本とも成るべき便を計り阪先生の揮毫せられたるにて姿致瀟洒として婉麗に製本亦頗る美にして上品なり

文學界

第十七號五月三十日發兌

蟬羽子を吊ふ
惡夢
北村透谷を悼む
夢見草
そゞろごと
狂ひのいのり
髑髏舞
流水日記
時文
一夕蝸牛、俳諧史傳、其他新刊

禿透殘雪克破蟬孤
木谷花影水蓮羽蝶

發行所 下谷三ノ輪八十九番地 文學界雜誌社

發賣所 女學雜誌社書店

東京産科婦人科病院
東京神田區駿河臺袋町十三番地（小松宮殿下邸前）

院長 醫學士 增田知正
●診察時間 午前七時から十二時迄

副院長 水原漸
●診察時間 午後一時より四時迄

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

俳諧史傳　全

定價三十錢〇郵税四錢

◉早稻田文學の評　女學雜誌社より發兌せる近年の好著なり小此木信一郞、布川孫市二氏の合著、思ふに此の著其道に詳しき專門家の目をもて見ば若干の欠點の見いださるべきは勿論ならめど、比較的にいへば此書實に空前の好俳諧史傳なるべし、たとへ此の書中に擧けたる論は悉く著者の創見にあらずといふとも、たとへ此の史傳古きに精しうして近きに粗なるも、たとへ着想の變遷を論するところ間々肉を貫いて骨に及ばさるの慨あるも、たとへ其の引抄する所の句どもに多少の誤謬(印刷の誤謬以外に)あるも、史眼の頗る濶大なる、敍事評論の其主題と相叶ふて優美、又閑雅、奇警又遒勁なる、讀むものをして卷を措く能はざらしむるの致あり、吾人は此書の再三版が初版の諸欠點を補修し、諸錯誤を正し、圓滿具足して、いで來らんことを切望す、

◉教育報知の評　是れ尋常一樣の筆勞に成りたる者に非す著者の言ふ處に依るに本書は實に去々年九月其稿を起し今漸くにして其梓に上りたるものなりと云ふ其間固より之を放擲する久しかりしと謂ふと雖も兎も角勞の多かりしは吾儕の深謝する所たり思ふに俳諧は我國平民文學の精華を現はせる者上下の人心に浸染して以て多少の詩想を涵養せしめたる其効頗る見るべき者あり既に此大效あり文學界豈此史傳なきを得んや兩氏は實に茲に察して先鞭を着けたる者なり緖き來るに躰裁甚た瀟洒行文甚だ流麗一見既に平民的文學を寫せる者なり而して其結論に曰く我今日の文界はこの愛すべき敬すべき平民的短歌を棺に收めて嘆美と追慕とを以て之を葬るへきの時ならむと一結縹杳何そ其見の高邁なる、是れ決して尋常一樣の史眼に非るなり

發行所　女學雜誌社書店

女學雜誌定價表

冊數	定價前金	市外定價郵税共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵税共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

本誌代價郵税共郵便小爲替にて拂渡局を必らす

一ッ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事

一請取人は神田區表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。

一郵便切手代用は一割增(五厘切手に限る)にて申受候

本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書添への事

東京市神田區表神保町六番地
發賣所　女學雜誌社書店

東京府北豐島郡王子村下十條八百五十一番地
發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 [illegible]